

A-49 グルコース負荷が血中非エステル型脂肪酸(NEFA)値に及ぼす影響について
(第1報)

実践女大家政

○芹澤政美

石澤久

目的 健康人ではグルコース負荷によって、血中NEFA値は血糖値と反比例的に下降することが知られている。この現象は高血糖がインシュリン分泌を刺激し、分泌されたインシュリンが脂肪組織からのNEFAの放出を抑制するためと考えられている。故にグルコース負荷の影響はNEFA値においても血糖値同様、糖尿病患者では健康人と異った様相を呈すると思われるので正常者と糖尿病患者合計55例について検討した。

方法 グルコース50g負荷試験の条件即ち、空腹時グルコース50gを内服せしめ、負荷前と負荷後30分、60分、120分の4回静脈採血し、グルコース、インシュリン、NEFAを測定した。グルコースは酵素法、インシュリンはラジオイムノアッセイ法、NEFAはITAYA-UI法で測定した。

結果 55例のうち8例を除き47例において負荷後のNEFA値の低下を認めた。低下を示さなかった8例のうち6例は糖尿病患者であった。負荷前のNEFA値をA、負荷後60分の値をBとし、その比を計算して健康人と糖尿病患者を比較してみた。血糖2時間値110mg%までの正常者の9例の平均値は 0.7 ± 0.23 、111~129mg%の境界型の1例では0.30、130~199mg%までの7例では 0.48 ± 0.11 、200~299mg%までの12例では 0.54 ± 0.17 、300~399mg%までの7例で 0.58 ± 0.23 、400mg%以上の7例で 0.69 ± 0.23 であった。まだ例数が少ないので断定的なことは言えないが、グルコース負荷がNEFA値を低下せしめる効果は糖尿病では鈍化しており、それも患者の重症度と平行するようと思われる。軽症と正常者計6名では負荷後60分のNEFA値はゼロまで低下する。これらではインシュリン分泌が非常に良好であることが認められた。